

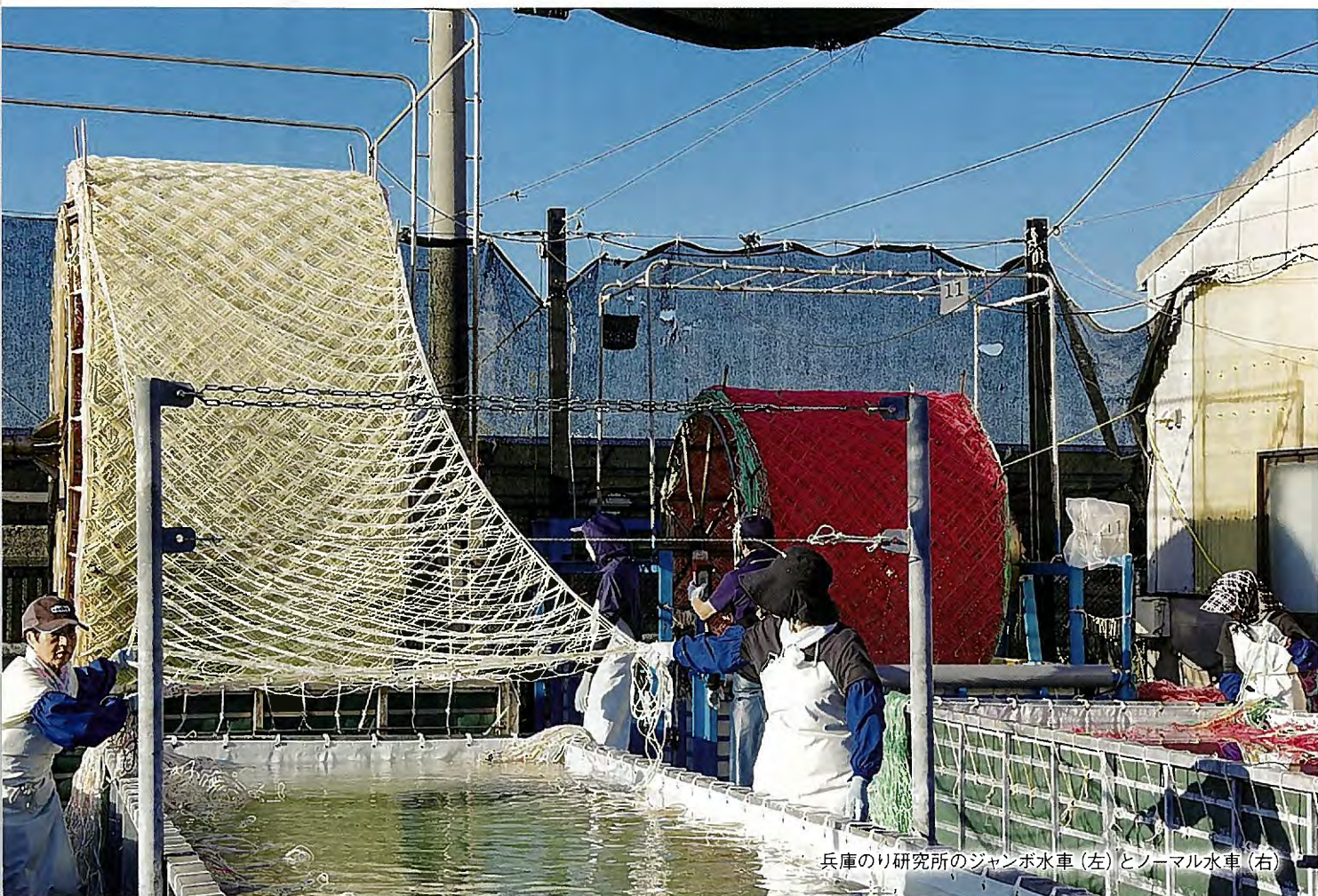
あし

TAKUSUI
No. 756

10
October.2019

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



兵庫のり研究所のジャンボ水車(左)とノーマル水車(右)

全国大会豊かな海づくり大会 秋田市

2021年秋 全国豊かな海づくり大会が明石市で開催

《今月の海上安全標語》 ～ もう覚えてますよね!?! ～

警察は110番。消防・救急は119番。では、海のもしものは?

海上の 事故や事件は 118番!! では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときのみそとして使われる）

「1日1行動改善」のすすめ

兵庫県漁業協同組合連合会 企画経営管理室 室長 **井上 喜嗣**



昭和61年に漁連へ入会後、当時の淡路支所で4年、本所で29年間、総務・経理・指導業務に携ってまいりました。最近では外出する機会が殆どありませんが、これまで様々な人と出会い、支えられ、培ってきた知識と経験は、貴重な財産になっています。ところで、皆さんも思いがけない「出会い」を経験したことがあると思います。

私は3年ほど前に素晴らしい「出会い」がありました。「出会い」と言っても、人ではなく、1枚のA4シートでした。本会職員研修会で使用した資料で、「1日の行動を振り返っての反省と改善」及び「月初に立てた目標を達成するための行動が出来たか否か○か×」を毎日記入する簡単なシートで、自分自身の行動を日々振り返り、小さな行動改善の積み重ねによって、セルフマネジメント力を高めていく事を目的にしたシートです。当初は、半信半疑で取組んでいましたが、3ヶ月経過した頃から小さな行動の変化を感じ、さらに続けていると、これまで長続きしなかった事が、いつの間にか無意識に、楽しみながら続けている自分に気づきました。目からウロコが落ちる思いでした。たったA4シート1枚ですが、私にとっては高価な自己啓発本より価値ある存在です。自分の価値観や性格を変える事は困難ですが、行動を変える事は可能です。

月	テーマ	氏名
1日1行動改善 本日の反省(次なる手立てを考える)		
日・曜		①②③
1 ()		
2 ()		
3 ()		
4 ()		
5 ()		
6 ()		
7 ()		
8 ()		
9 ()		
10 ()		
11 ()		
12 ()		
13 ()		
14 ()		
15 ()		
16 ()		
17 ()		
18 ()		
19 ()		
20 ()		
21 ()		
22 ()		
23 ()		
24 ()		
25 ()		
26 ()		
27 ()		
28 ()		
29 ()		
30 ()		
31 ()		

思考回路がかなり錆び付いていて、行動改善にはなかなかつながりませんが、今後も続けて行きたいと思います。何故、もっと若い時にこのシートに出合えなかったのか、とても残念です。『意識は行動をつくり、行動は習慣をつくり、習慣は体質をつくり、体質は運命をつくる』という言葉があります。今から、「1日1行動改善」を始めませんか。

CONTENTS

No.756 October. 2019

- 2 ようそろ
- 3 漁協系統功労者表彰受章者決定
大日本水産会 水産功績者決定
- 4 全国豊かな海づくり大会 あきた大会
ノリ採苗作業 はじまる
- 5 全国豊かな海づくり大会 2021年秋に明石市で開催
- 6 摂播漁青連 神戸製鋼視察
新組合長紹介
- 7 兵庫 JCC 通信
- 8 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

兵庫のり研究所 ジャンボ水車とノーマル水車

水車を使ったノリ採苗作業は、ノリ養殖を行う浜の秋の風物詩で、漁期の本格的な始まりを告げるものです。

水車に網を巻き付け、ノリの胞子が入った水の中を回転させ網に胞子を付着させますが、兵庫のり研究所にある11台の水車の中で、ひと際目立つ1台の「ジャンボ水車」。大きさは通常の2倍、一度に巻き付ける網の量も半端ないです。

今漁期も事故や病害も無く、良いノリが出来ることを願っています。

JF全漁連(岸 宏会長)は、9月19日に2019年度(第34回)漁協運動功労者37人および第2回漁業振興功績者36人を発表しました。表彰式は11月22日に東京で行われる予定で、本県からは、JF淡路島岩屋代表理事組合長である東根 壽氏が多くの功績を認められ漁協運動功労者表彰を、またJF林崎の小松 洋一氏とJF高砂理事の松本 浩明氏が漁業振興功績者表彰を受章されます。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

2019年度漁協系統功労者表彰受章者決定
本県より3名が選ばれる

東根 壽氏

JF淡路島岩屋 代表理事組合長
JF兵庫漁連 副会長
一般財団法人 兵庫県水産振興基金 理事長



漁協運動功労者表彰



松本 浩明氏

JF高砂



小松 洋一氏

JF林崎

漁業振興功績者表彰

大日本水産会の2019年度水産功績者が決定

～本県からは森 武美氏(兵庫県漁協女性部連合会 会長)が受賞～



大日本水産会(白須 敏朗会長)は、10月10日(木)2019年度の水産功績受賞者38名を決定し発表しました。兵庫県の漁協関係からは、水産業の振興と発展に功績があった森 武美氏(兵庫県漁協女性部連合会 会長)が選ばれました。

表彰式は、11月26日(火)に東京で開催される予定です。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

森 武美氏

第39回全国豊かな海づくり大会あきた大会 テーマは「海づくりつながる未来豊かな地域」

9月7日

(土)、8日

(日)の両日、

「第39回全国豊かな海づくり大会あきた大会」が秋田市で開催され、式典行事、海上歓迎・放流行事などの関連行事も含め、多くの来場がありました。



お言葉を述べる天皇陛下 (写真提供: JF全漁連)



稚魚を放流する大島議長と岸会長 (写真提供: JF全漁連)

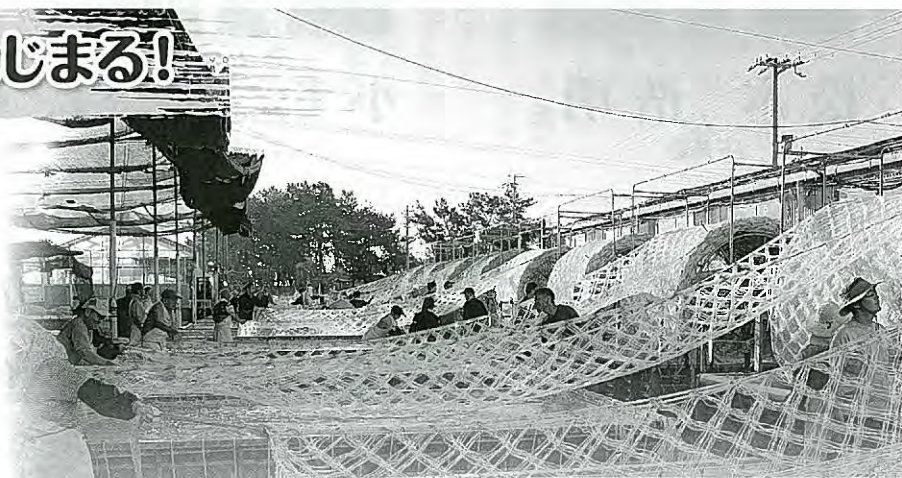
式典は7日に秋田県立武道館で行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者が出席しました。式典では、大島理森大会会長(衆院議長)が、「秋田の海、川、湖の魅力誇りをし、恒常的な資源管理の取り組みなどを基礎に、水産業の振興と活性化が図られることを期待している」と述べ、また、佐竹敬久秋田県知事が、「本大会を契機に豊かな自然に感謝するとともに、未来永劫、守り育てる思いと行動の大切さを、将来を担う子供たちにしっかりと繋いでいきたい」と挨拶しました。その後、天皇陛下から「海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命である」とのお言

葉を賜りました。

このあと、功績団体表彰が行われたあと、作文コンクール小学校低学年の部で最優秀賞を受賞した小林桜和さん(秋田県八峰町立八森小3年)による作文「海とわたしの家族」の朗読・発表に続き、両陛下から漁業関係者へハタハタ、サクラマスの稚魚等がお手渡しされました。

その後行われた大会決議採択では、岸宏大会推進委員長(JF全漁連会長)が大会议議を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に、佐竹秋田県知事から来年秋に開催が予定されている宮城県の村井嘉浩知事へ大会旗の引き継ぎが行われ終了しました。

ノリ採苗作業 はじまる!



JF兵庫漁連(田沼政男会長)は、本年度のノリ陸上採苗作業を、兵庫のり研究所(明石市)で9月24日(火)から開始しました。毎年、気温が下がってきた9月下旬から行われており、朝6時頃から大勢の職員、パートの



顕微鏡作業でノリ胞子の付着度合いをチェック

皆さんが作業にあたっています。

同研究所では11台の水車を使って採苗を行っており、漁業者からの品種や付着度合い等の注文に対応しています。担当職員らは、網を水車から外したり、新しく網を張ったりする作業のほか、付着度合いを確認するための網切りと検鏡作業、水温・照度のチェックなどの業務に追われています。

のり海藻部によると、明石・淡路の現場での作業は順調で、10月中旬までに両センターで種網約58、000反を仕上げるとのこと。本格的なノリ養殖開幕に、今漁期への期待が高まっています。

第41回 全国豊かな海づくり大会 2021年秋に明石市で開催

9月10日(火)に兵庫県民会館にて、兵庫県実行委員会の設立総会と第1回総会が開催され、水産資源の保護や漁業振興などを目的に開かれる「全国豊かな海づくり大会」が2021年の秋に明石市で開かれることが決定しました。兵庫県での開催は、1982年に第2回大会が香住町(現 香美町)で開催されて以来で、全国で初めて2度目の開催となります。

大会は2021年秋の土日の2日間にわたり、式典が明石市民会館、海上歓迎・放流行事は隣接する明石港ベランダ護岸で実施されます。基本構想には、「豊かで美しいひょうごの海」の創出と継承、「力強い水産業の確立と地域の活性化」、「豊かで多彩なひょうごの魅力」の発信の3つ



看板を掲げる金澤副知事(右)と寺尾部長



の基本方針が明記されました。この大会は、豊かな海づくりに向けた兵庫の取組を積極的に発信し、その取組を一層確実なものにする絶好の機会になります。

また、9月11日(水)には、兵庫県産ヒノキを使った兵庫県実行委員会(会長・井戸敏三知事)事務局の看板が、金澤 和夫副知事(同会副会長)と寺尾 俊弘農政環境部長(同事務局長)によって兵庫県庁水産課執務室前に掲げられました。

今後、大会スローガン、大会キャラクターコスチュームデザインの募集も行われ、大会の成功へ向け、益々機運が高まっています。



第41回

全国豊かな海づくり大会

兵庫大会 ～御食国ひょうご～ 令和3年秋開催

大会スローガン &
大会キャラクター
コスチュームデザイン
募集!

募集期間
令和元年 10/21(月)
12/20(金)必着

令和3年秋に本県で開催される「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会(御食国ひょうご)」の大会PR及び機運醸成のため、大会スローガン及びキャラクターコスチュームデザインを募集します。

詳しい情報は、兵庫県庁HPをご覧ください。

応募先
(問い合わせ先)

兵庫県農政環境部農林水産局水産課
(第41回全国豊かな海づくり大会 兵庫県実行委員会事務局) 宛
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL: 078-362-9186 FAX: 078-362-3920 MAIL: suisanka@pref.hyogo.lg.jp

応募用紙のダウンロードはこちら▼



摂播漁青連 神戸製鋼視察 「食品高圧処理によるカキ殻むきマシン視察」



製鋼を訪れ、高圧処理を利用したカキ殻むきマシンの視察しました。

参加したカキ養殖に携わる青壮年部員や行政関係者約20名は、神戸製鋼高砂製作所の総合事務所で神戸製鋼の概要や製品についての説明を受け、その後、製作所内のテクニカルセンターへ移動し食品用高圧処理装置「FOOD PROCESSOR」の説明とデモンストラーションを見学しました。

高圧処理とは、最大600Mpa（メガパスカル）の水圧により食品を非加熱殺菌する技術で、タンパク質変性など物性変化を利用しカキなど二枚貝やロブスターなど甲殻類の脱殻ができるもので、

カキは殻が開いた状態となり、殻を振ると身が簡単にとれます。

この日は、実際に兵庫県産力カキを持ち込み、1回目230Mpa、2回目400Mpa、3回目180Mpaと圧力を変え、カキ身の変化などを確認しました。デモの結果は、どの圧力でも問題なく殻がむけ、むき身に傷も無く、殻に貝柱も残らない良い状態でした。

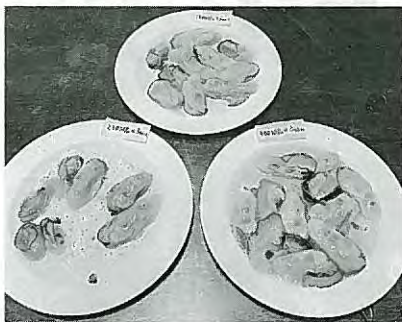
1回の高圧処理には3分程度かかり、カキ80〜90個をセットする時間も含め1時間で5〜6回稼働できるそうで、参加者は食品高圧処理についての知識を身に付けるとともに様々な意見交換を行いました。



①高圧処理前のカキ 海水を浸した袋に入れます



②取り出したカキ 殻が開いています



③高圧処理後のカキむき身

新JF組合長のご紹介

2019年度、新たにJF組合長に就任された方をご紹介します。

※（一財）兵庫県水産振興基金確認分



JF洲本炬口 代表理事組合長
山本 浩之氏
(2019年3月17日就任)



JF浅野浦 代表理事組合長
河野秀二郎氏
(2019年3月23日就任)



JF育波浦 代表理事組合長
片山 守氏
(2019年3月24日就任)



JF兵庫 代表理事組合長
糸谷末二郎氏
(2019年3月31日就任)

「環境創造型農業」の実践と 理念への共感を育む取り組み

(JAたじま)

JAたじまでは、環境に配慮する「環境創造型農業」を実践し、農産物と生物を同時に育む米作りに取り組んでいます。その中でも、特別栽培米（農薬の使用量や化学肥料の分量に配慮し栽培された米）である「コウノトリ育むお米」は、コウノトリにとってすみよい環境づくりを目指して栽培されています。

昭和46年に野生で絶滅に至った国の特別天然記念物であるコウノトリの野生復帰には、人とコウノトリが共生できる地域ぐるみの取り組みが重要でした。そこで環境に配慮した「コウノトリ育む農法」による米作りが始められました。

この農法は、農薬や肥料の使用に関する配慮に加えて、除草や水質管理の作業で手間がかかりますが、コウノトリの餌となる生物の増加や害虫抑制に効果があります。水田中の生物の種類・数とコウノトリの生息数は着実に増加しており、同農法の理念に賛同する生産者の数が増えています。

JAでは、この取り組みや理念をより多くの人に伝えることにも力を注いでいます。生協組合員、消費者、流通業者等を対象に、田植えや収穫体験、田んぼの生き物調査等を開いて、多くの生物がいることを肌で体感してもらっています。このような取り組みを通じて、環境創造型農業の理念の共感を消費者に広めています。

今後は、有機JAS認証の取得や無農薬タイプへの転換を、この「コウノトリ育むお米」で進め、自然と人が共生する但馬地域の持続可能な米作りを目指していきます。



生協の組合員が参加する生き物調査

ひょうごまるごと健康チャレンジ2019 「第1回ほがらかウォーク in 東灘」開催

10月1日（火）、兵庫県生協連と生活協同組合コープこうべ主催で「第1回ほがらかウォーク in 東灘」を開催し、総勢300名の参加がありました。

スタート地点のコープこうべ住吉事務所では、ろっこう医療生協による「歩行測定」や、一般社団法人ウェルネスネットワークによる「ノルディックウォーク体験」、ネスレ関西による「コーヒーの試飲会」が行われ、スタート前から大いに賑わいを見せました。

今回のほがらかウォークは、トータル距離約6.3km（約1時間半ほど）のコースで、10月1日「日本酒の日」ということもあり、チェックポイントとして、「①白鶴酒造資料館」「②神戸酒心館」「③こうべ甲南 武庫の郷」「④マルヤナギ小倉屋」「⑤本住吉神社」の5つが設置されました。参加者は各チェックポイントを楽しみながら、東灘の街を『ほがらか』に歩きました。



ろっこう医療生協「歩行測定」



ゴールした参加者



旬に想う

写真と文
遊方子

四字熟語

◆漢字が四個並ぶと、かなり厳しい顔付きになる。その「四字熟語」のうち、中国生まれのものは、古代中国の寓話や詩文・史書・兵法書などから採られたり、孔子や孟子・老子・莊子・朱子ら思想家の言葉や著作から選ばれた成語である。また特定の故事から生まれた四字熟語も数多い。それぞれが教訓や示唆に満ちていて、覚えておいて損はない。結婚式やパーティでのスピーチに使えばピリッと話を締められることもあり、職場や暮らしの中で活用しても良いと思っている。日本独特の四字熟語もあり、出自を探すのが楽しくなる。

◆漢語の【有耶無耶】は耶に疑問や反語の意がある。判然といい切らない所は、北方領土や竹島問題のような類いだらう。日本の領土だと、きっぱり主張出来ない所が全く焦れつたくなる。速く決着が付かぬものか。【曲学阿世】は真理追求の学問をゆがめ、世間に阿ねる態度を取るのを悪く罵る場合に使う言葉だが、昭和25年講話問題を巡って、時の首相が東大総長を「曲学阿世の徒」だと罵った。総長が総理大臣を何と罵倒したかは不明であるが、この総理は葉巻と白足袋で知られ、新聞記者にコップの水をかけたたりバカヤロー発言で議会解散したワンマン宰相吉田茂である。超頑固で元氣な所が意外に人気があった。

◆好きな四字熟語は【切磋琢磨】だ、特に青春期にはそんな友人が身近に居れば励みになる。ライバルとの対話が大きい刺激となつて、技を磨いて道を目指す。四字熟語で難儀なのは、読みが同音のため間違ひ易いものが多い事だ。熟語の意味が判っていることが必須となる。そのため故事来歴を知らねばならないが、漢籍や中国古典は密度が濃く、難解すぎて近寄り難い。時代色が出た骨董品ではあるけれど、噛めば快い滋味に溢れている。歴史人物が蘇えり勉強になること必定だから、努めて身近に置いて目にする事だらう。漢字検定では、制限時間があり毎回追われ追われて、つい間違ひを侵して仕舞う。

◆暴饮暴食は【鯨飲馬食】とか【牛飲馬食】ともいう。飲み放題という誘客言葉があるが、人間の胃袋は限度があり、そんなに飲み食い出来るものではない。我が愛読書・広辞苑「一杯」の項目に「一杯は人酒を飲む、二杯は酒酒を飲む、三杯は酒人を飲む」と成句が掲載され、飲酒については解説がしてある。百薬の長も程々に飲むのは良いが、この適量範囲を決めるのが甚だ難しい。【他山之石】は「よその山から出た粗悪な石」の事だが、初版の編者・新村出が、その序文で《手本》という意味の誤った使い方をしている。本文の解説とは矛盾しているが序文は書き直し出せず、現編集者の苦痛のタネだらうがヤムを得まい。

大輪田塾だより

令和元年度 大輪田塾修了論文発表会

本年度の大輪田塾修了予定者が、これまでの研修の総仕上げとして行う大輪田塾修了論文発表会が、9月24日(火) 兵庫県水産会館で開催されました。東根壽塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役員ら約60名が出席するなか、大輪田塾13期生3名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

発表後に行われた講評で、運営委員を代表して関西学院大学 田和正孝教授から発表者全員の論文の単位が認定され、一人ずつの論文に対し詳しく評価がなされました。田和運営委員は「3名の発表は、地域の特色を捉えた大変優秀なものであった」と話され、発表者は安堵の表情と共に、これまでの苦労が報われたようでした。



講評する田和運営委員



修了論文発表の様子

神戸市漁協の海苔養殖

JF神戸市 布施 達也(13期生)

指導員：山本 恭範(県農政環境部農林水産局水産課)

明石浦の未来を見据えて

JF明石浦 土井 祐介(13期生)

指導員：妹背 秀和(県加古川農林水産振興事務所)

私が営む水産加工業について(これからの品質管理への対応)

JF坊勢 岡田 京大(13期生)

指導員：岩佐 隆宏(県姫路農林水産振興事務所)

(発表順：敬称略)

【修了論文認定審査員(敬称略)】東根 壽塾長(兵庫県水産振興基金)・田和正孝運営委員(関西学院大学)・長島 浩治運営委員(県水産課長)・平石靖人運営委員(県水技センター)所長・田中稔彦運営委員(JF兵庫漁連)・近藤敬三運営委員(兵庫県水産振興基金)